

幼稚園教員養成における教職の意義並びに内容を 学生に実感させる授業のあり方

橋 本 由 美 子

要約

本研究は、授業実践を通して、幼稚園教員養成における教職の意義並びに内容を学生に実感させる授業のあり方を考察した。またよりよい指導方法を開発することに焦点を当てた。学生に「生きる力」をつけるために、受け身でなく、主体的に学び、自ら考え、表現する授業形態を取り入れた。ロールプレイング、グループ活動等で、学生同士がコミュニケーションを取り合う中で、相手の立場を考えられる場面を設定した。

成果としては、計画、実行、評価、振り返りのサイクルの中で、学生に教育現場に出る時の心構えが出てきたことが明らかになった。

今後の課題としては、教職の意義をさらに、実感させるために、新聞やニュース等で現代の教育の状況を敏感に受け止めるような学びの姿勢を身につけさせる方法を模索することである。

キーワード 生きる力、ロールプレイング、振り返り

目次

はじめに

1. 研究の目的
2. 教職の意義・内容
 - 2.1 生きる力と教育の現状
 - 2.2 基礎・基本とは
 - 2.3 今、幼児教育で必要なことは
 - 2.4 教職の意義・内容とそれにかかわる授業科目
3. 実践事例と授業の工夫
 - 3.1 具体的な活動を通して学びを深める工夫（ロールプレイング）
 - 3.2 自己を振り返る学び 振り返りノート
4. まとめ
 - 4.1 知見
 - 4.2 今後の課題

はじめに

2011年3月11日、1000年に一度という未曾有の巨大地震が東日本を襲い、今なお津波や原発の爪痕を残している。悲惨な状況の中、保育士さんが冷静な判断で落ち着いて誘導し、全員無事に避難できた保育園のニュースも目にした。

本学こども学部も3月に初の卒業生を送り出し、就職率98.5%の好成績を残した。就職した学生たちが、幼稚園教諭や保育士として、自分の考えで判断し、行動し、生きる力を持って幼児教育に貢献してほしい。そのためには、教師主導型でなく、学生主体の授業内容を工夫し、幼稚園教員養成における教職の意義並びに内容を学生に実感させたいと考える。

1. 研究の目的

本研究の目的は、授業実践を通して幼稚園教員養成における教職の意義並びに内容を学生に実感させる授業のあり方を考察し、よりよい指導方法を開発することである。

2. 教職の意義・内容

2.1 生きる力と教育の現状

2010年10月6日、ノーベル化学賞が根岸英一氏、鈴木章氏に贈られるというニュースが新聞のトップ記事になっていた。記事によると、「金属のパラジウムを触媒として、炭素同士を効率よくつなげる画期的な合成法を編み出し、プラスチックや医薬品といった様々な有機化合物の製造を可能にした」と言うことで、日本人のノーベル化学賞受賞は、17、18人目という快挙である。

以前、事業仕分けの予算の見直しのときに「日本は1位でなければいけないのですか」と言って話題になった国会議員がいたが、1位とか2位といったことが問題ではない。未来を背負って立つ子どもたちのために教育にお金をかけなければ、資源のない日本は崩壊する。そこで、自ら考え、自ら判断できる知的な資源を育てることが急務である。

私は、こども学部設立2年目に着任し、本学で初めて2年生に算数の講義をした時、「先生、僕たちはゆとり教育で育ったので、学力がついてなくても仕方ないのです」と恥ずかしげもなく言い放った、ほんの一部ではあるが、男子学生の言葉に愕然とした。ゆとりをはき違え、自分の努力不足を堂々とゆとり教育のせいにしてしている学生をそのまま幼稚園の教諭や保育士に送り出すことはできない。何とか考える喜びや意欲を持って卒業させなければと強く思った。確かに教育の在り方に問題があったことは否めない。

しかし、現実には、漢字が書けない、読めない大学生の増加、塾が大学へ出前授業、ゆとり時代の学生を取りたくないという会社などの記事を目にすると、笑いごとでは済まされない。本学でも、新聞記事を読ませると、読めない漢字で何か所も止まる学生もいる。

一方で、知的好奇心にあふれ、進んで授業に取り組んでいる学生もいる。学びたいと考え、大学の授業を受けていると信じたい。授業の進度も、どのレベルに焦点をあてるか難しいと

ころであるが、進んでいる学生を満足させ、同時に授業を義務感で受講している学生にも、授業への満足度を高めなければならない。

平成20年（2008年）1月に公表された「中央教育審議会答申」によると、今回の学習指導要領改訂では、改正教育基本法等で示された教育の基本理念を踏まえるとともに、現在の子どもたちの課題への対応の視点から、次の6つを挙げている。

- ①「生きる力」という理念の共有
- ②基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ③思考力・判断力・表現力等の育成
- ④確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
- ⑤学習意欲の向上や学習習慣の確立
- ⑥豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

教科全般にわたり、「言葉を使う力」を強調している。また、PISA調査によると日本は読解力、科学的リテラシー、数学的リテラシーの点で問題があるとされるが、特に日本は無回答率が高いという結果が出ている。

「生きる力」とは全人的な資質や能力のことをさす用語であり、具体的には、「変化の激しいこれからの社会を」生きる力である。1996年に文部省（現在の文部科学省）の中央教育審議会が「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」という諮問に対する第一次答申で

我々はこれからの子どもたちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに強調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を「生きる力」と称することとし、これらをバランスよく育んでいくことが重要であると考えた。

と述べられているように、教育の新たな目的の一つとして挙げられるようになった。

学習指導要領の重点は

- | | |
|------------|---------|
| ①生活単元学習 | 昭和26年告示 |
| ②系統学習 | 昭和33年告示 |
| ③現代化 | 昭和43年告示 |
| ④ゆとりと充実の教育 | 昭和52年告示 |
| ⑤学ぶ意欲と主体性 | 平成元年告示 |
| ⑥生きる力 | 平成10年告示 |

⑦生きる力

平成20年告示

である。「生きる力」の育成が現行の学習指導要領でも重点になっている。

生きる力とは、中央教育審議会の第一次答申でも述べられているように「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」であり、「自らを律しつつ、他人とともに強調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力であり、次の5項目が特に強調されている。

①課題発見・解決能力 ②コミュニケーション能力 ③情報処理能力

④豊かな人間性 ⑤健康・体力

これらの5項目は、教育にとってどれも欠かすことができない大切な要素である。つまり、知・徳・体のバランスの取れた人間像が求められていると捉えられる。

上記の強調点や教育の現状から鑑み、私は幼稚園教職科目の中で、知・徳のバランスの取れた人間を育成するために、「生きる力」を身につけさせることが肝要と考え、授業の工夫を考えた。教育現場に出た時に、さまざまな未知の場面に遭遇した時、あわてることなく、対応できるためには、日々課題を自ら見つけることができるか。情報過多のものから、どう処理し、選択して、活用するか。自分の思いを文章や言葉でどう表現し、コミュニケーションをとれるようにするか。これらの点を学生に身につけさせることが重要であると考えた。

2.2 基礎・基本とは

基礎と基本は別の概念でなく、基礎・基本で捉える。基礎は「基礎工事」という言葉があるように土台と考える。また基本は土台を支える柱である。例えば、算数を例に取ってみると、知識・理解、技能の確実な定着だけでなく、数学的な思考力、表現力も基礎・基本と捉える。中島ほか（1995）^{〔1〕}は『算数の基礎学力をどうとらえるか』の中で次のように考える力について、「考える力や態度も基礎学力である。算数を使う力も基礎学力である。発展的に考える態度も基礎学力である」と捉えている。また、基礎学力にとっての根本問題である「何にとっての、誰にとっての基礎なのか」「どこまでが基礎なのか」について、さらに次のように述べている。

基礎とは、あることを成り立たせる土台である。算数の基礎学力とは算数で育てたい学力にとっての土台ということになる。そして算数で育てたい学力とは人間形成にとって必要なものである。そこで、算数の基礎学力とは、人間がよりよく生きていく上での基礎となる。決して、将来学ぶ数学という学問にとってだけの基礎ではない。基礎と思われる能力や内容を、数学の学問体系と社会的文脈と子どもの発達とに照らして判断される。

つまり、各教科で押さえる基礎・基本は教科だけでなく、互いに連動し合って人格を形成するための重要な基盤となるのである。上記は、算数を例にとったが、他教科でも同じこと

と言える。ともすると、知識を身につければ、それで十分であると考えられがちであるが、思考力、表現力も生きる力の基礎・基本となる大切な学力である。

2.3 今、幼児教育で必要なことは

大場幸夫(2010)^[2]は『保育学入門』の中で、保育者に求められる人間性として、次のように訳している。

保育者は、前例に流されるのではなく、自分の信念に基づいて役割を果たし、服従を要請することなく権威的に振る舞い、無原則でなく経験に基づいて仕事をし、屈辱を感じることなく過ちを受けとめることができるようなゆるぎのなさを、自分自身に持っていることが必要です。他に必要な特徴として、身体的な健康、自己認識、高潔さ、理論的な基盤、一般教養、子どもへの信頼、子どもへの無条件のケア、洞察力、公平さ、笑顔、そして子どものモデルになる能力が挙げられています。リリアン・カツツは、好奇心、新しい考え方への開放性など、きわめて重大だと信じている性質を挙げています。

私は、この中で、「屈辱を感じることなく過ちを受けとめることができるようなゆるぎのなさを、自分自身に持っていることが必要です。」を達成するためには、上記に書かれているような理論的な基盤、一般教養、洞察力、好奇心、新しい考え方への開放性は、大学の教員養成の授業の中で、培うことができると考える。考える力、知的好奇心、洞察力を身に付けるために、「考えるということ」をどう捉えるかについて以下述べていく。

『いかにして問題を解くか』の著者で著名なジョージ・ポリア^[3]の『数学の問題の発見的解き方』の中に、教師に対する十戒という文章がある。

教師に対する十戒

1. 自分の題材に興味を持て.
2. 自分の題材を知れ.
3. 学習の仕方を知れ. 物を学ぶ最良の道は、それを自分で発見することだ.
4. 自分の生徒達の顔を読むように努めよ. 彼らの期待と困難とを知るように努めよ. 自分を彼らの立場に置け.
5. 彼らに、情報だけでなく「能力」、心の態度、組織的な仕事の習慣をも与えよ.
6. 彼らに推測することを学ばせよ.
7. 彼らに証明することを学ばせよ.
8. 現在手がけている問題について、今後の諸問題を解くとき有用だろうと思われる諸特徴を探せ—現在の具体的状位の背後に横たわる一般的パターンをあらわにするよう努めよ.
9. 自分の秘密をすべて一度にさらけ出すな—貴方が云う前に生徒に推測させよ. できるだけ沢山生徒に自分で発見させよ.

10. それを暗示せよ、無理に生徒の口に飲みこませるな。

このうち、上記の3、6、9の項目が考える力、知的好奇心、洞察力を身に付けるために、特に有効であると捉えた。これらの3項目は、学生に知識を与えるだけでなく、自分で発見し、推測し、自らが智恵として使えるようになることを意図している。よく東南アジアやアフリカなどの発展途上国に支援をするとき、魚釣りに例えて、「食料を援助することは、その場で終わりになるが、技術開発の援助をして作り方を教えれば、その国の力となり、それが真の援助である」という言葉を耳にする。これは授業でも同様である。

学生もただ講義記録を取り、暗記するのではなく、吸収した知識が知恵となって生きて働くためには、自分の問題として捉え、自ら考える習慣が身に付けば、真の学力となっていく。言い換えれば、指導者は、「学び方を学ばせる」ことが重要であると考えている。

2.4 教職の意義・内容とそれにかかわる授業科目

担当科目のうち、カリキュラム論、教職概論、教育の制度と経営、教育の方法と技術、子どもと学習活動、算数、教職総合ゼミ、などが、幼稚園教諭の教職専門科目である。授業のねらい・概要は次の通りである。(2011年浦和大学こども学部 シラバスより)

カリキュラム論

【授業の目的・ねらい】

学習指導要領・幼稚園教育要領・教育課程の編成・カリキュラムの開発について基礎的な事項の習得を目的とする。

【内容の概要】

幼稚園教育要領のねらい・内容を理解させる。5つの領域「健康」「人間関係」「環境」「ことば」「表現」の具体的内容を把握し、幼児の生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を育てる幼稚園のカリキュラムについて具体的な例を示しながら講義する。幼児の自発的な活動としての遊びは心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮し、遊びを通しての指導で子どもたちがどう学んでいくか、小学校への成長の連続性、系統性を踏まえたカリキュラム論を展開する。

教職概論

【授業の目的・ねらい】

教師・教員・教職員についての基本的事項を理解させる。なぜ教職につくことが意義あることなのか根拠に基づきわかるようにする。

【内容の概要】

幼稚園の教員養成における教職の意義や教員の果たす役割、サービスの厳正、身分保障職務内容等に関する知識を習得させる。幼児教育の持つ重要な役割を知らせ、研修することの

大切さを理解させる。将来教職に就くことについて意欲を測り、具体的事例を挙げ、望ましい子ども観、教材観が身につくように講義する。また、教職ということに関していろいろな視点から多面的に考察できるように、動機づけを図る。

教育の制度と経営

【授業の目的・ねらい】

変化の激しい情報化・国際化社会の中で、社会のニーズに応える新しい学校経営をどう進めるべきか多様化する教育機能を関連させるためにどうするか。また、生涯学習時代の教育にも目を向けさせる。広い視野でものごとを見る目を養う。

【内容の概要】

教育制度と教育法規の知識・理解習得だけでなく、教育制度そのものがめまぐるしく変化している現状の中で、判断する能力を養う。制度の歴史的変遷・幼保一元化・小中高一貫教育、学校二期制など具体的な事例を挙げる。諸外国の教育制度、わが国の課題などについても考えさせる。

教育の方法と技術（2010年度）

【授業の目的・ねらい】

情報活用能力を養うために、情報機器及び視聴覚教材の意義活用について、総合的、実践的に理解する。授業改善のための教育方法と技術の動向を知り、実践者として必要な能力を身につけさせる。

【内容の概要】

学習者が自ら学ぶ力が高められるような教育方法や技術について、その意義と動向について、基本的な理解を促す講義を行う。機器や教材の活用の必要性や、教材の果たす役割について、教育現場における展開事例を用いて理解させる。視聴覚教材（読み聞かせ・紙芝居・ペープサート・エプロンシアター）がどのような場面でどのように効果的に活用されているか、実践事例に基づき、学生が体験を基に、イメージできるように配慮し、身につくように教授する。

子どもと学習活動

【授業の目的・ねらい】

幼稚園教育要領、各領域の内容を具体的事例から理解させる。幼児期の学習は遊びそのものであり、ねらいに基づいて指導していることを捉える事ができる。

【内容の概要】

幼稚園教育要領に基づき、学習活動の具体的内容及び幼児理解に関する理論と方法を学ばせ、幼児指導の具体的方法を身につけさせる講義内容を行う。学習活動が成立するための幼児の発達の側面から見た各領域、「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」のねら

い、内容について教授する。また、幼児を取り巻く社会的状況、今日的な課題にも触れる。小学校との成長の接続を視野に入れ、具体的な事例をもとに教授内容を展開する。

算 数

【授業の目的・ねらい】

小学校算数の目標、4領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の内容を具体的に見ていくことで、幼児期にも共通する数感覚・量感覚を養う。

学生自身が算数に興味・関心を持てるようにする。

【内容の概要】

幼児教育で数についての感覚、量についての感覚、図形についての感覚を重視することにより、小学校における算数教育への滑らかな接続を図る。小学校算数・数学教育の系統性を見通した幼児期における数・量・形について基本的な事柄を理解させる。「数と計算」「量と測定」「図形」領域において発達段階に応じた興味や関心、感覚が養われるように学生自身がまず、自力解決する達成感を味わい、算数の楽しさを感得できるよう算数的な活動を取り入れるなど作業・体験を重視した指導法を考究する。

教職総合ゼミ

【授業の目的・ねらい】

幼稚園教諭を志望する者として人間尊重の視点をしっかり身につけるとともに、子どもを取り巻く社会の諸問題について理解を深めることにより、広い視野を持てるようにすることを授業のねらいとする。また、それらの諸問題を子どもにどのように指導していくか、演習を通じて指導方法を学ぶ。

【内容の概要】

前半では子どもをとりまく家庭や豊かな人間関係、子ども時代の生育環境などを取り上げ、学生の体験発表を素材とするディスカッションを中心に展開し、分析及び検討を加える。後半では、新聞など学生自身が身近な材料を使って、環境や食育など子どもをめぐる諸問題を発見し、資料収集やディスカッションを行い、それを通じて社会全体に眼を向けられるように指導する。また、幼児に対してどのように指導するか、具体的な教育方法や技術、教材についても指導する。さらに、学生が個々に関心のあるテーマを発見、資料収集や問題解決へ至る手順について各自が発表を行い、総合的な力を高める。

3. 実践事例と授業の工夫

具体的な事例としては、

(1) ディベートを通して根拠に基づき、自分の考えを表現させる指導の工夫

「携帯電話は必要か、必要でないか」(教育の制度と経営)

「カチカチ山のたぬきとうさぎ」「ゆとり教育の是非」「二期制と三学期制について」

- 「早期教育の是非」「学校選択制について」（教職概論）（カリキュラム論）
- (2) 具体的な活動を通して学びを深める工夫（ロールプレイング）
- 「モンスターペアレントなど保護者の苦情対応」（教職総合ゼミ、教職概論）
- 「万引きした子の親と店主のやりとり」（教職総合ゼミ、教職概論）
- (3) 学び合いを通して意味理解を深める指導の工夫（グループ学習）
- 「家庭の教育力低下に伴う親の気になる行動・子どもの気になる行動をKJ法で分類整理して、考察・発表」グループによる課題調べ
- 「手作りカルタ（子どもの生活場面）作りと実際のプレイ」
- 「グループごとの手遊び発表」「ゲーム発表」（こどもと学習活動）
- 「紙芝居」「朗読」「人形劇」「ペープサート」（教育の方法と技術）
- 「パターンプロックによる活動・ポリドロンによる操作的活動」（算数）
- ＊パターンプロックとは、三角形、台形、六角形、平行四辺形等が色つきで、敷き詰めたり、積み重ねたりできる積み木のような算数教具である。
- ＊ポリドロンとは三角形、四角形、六角形等の枠だけでできていて、はめ込むと空間図形ができる教具である。
- その中からロールプレイングの例を挙げて述べる。

3.1 具体的な活動を通して学びを深める工夫（ロールプレイング）

現在、教育現場では教職についてから様々な理由で精神的に調子を崩して、病休を取ったり、休職したり、退職に追い込まれる現状が増えている。特に、勤めて1年も経たないうちに退職する例も耳にする。

その多くの場合が、希望に燃えて就職するが、社会の荒波に揉まれていないために、挫折も早い。困難への耐性ができていないのである。精神的に調子を崩す原因として、指導力不足に拠るクラスの荒れ、同僚との不和、教職に対する自信のなさなども挙げられるが、顕著な例は、①保護者からのクレームに対応できない ②初期対応に失敗し、同僚や上司に相談できず、一人で悩みを抱え込んでしまう ①、②の結果、精神的に落ち込み、教職を続けられなくなるのである。

私は、大学の授業の中で、これらの現実があることを前もって認識し、知識だけでなく、その対応策について、学び、ロールプレイングやディベート等で模擬的に想定しておく。その結果、現場に出た時に慌てることなく、対処できると考える。また、教職につく意義と重要さ、やりがいや学生が自ら実感すると確信する。想定外でなく、いつでもどこでも起こりうることとして、想定しておく大切さを実感してほしいと考えた。

そこで、授業の中で、生きた教材として学ぶために次の方法を取り入れた。

事例Ⅰ クレームの事例で、ロールプレイング（総合教職ゼミ、4年）

（幼稚園の場面。園児が仲間はずれになったと保護者が苦情を訴えた時の対応）

事前指導

3年生の「教職概論」の授業で、モンスターペアレントやヘリコプターペアレントの定義・現状・背景となる社会情勢、事例について学んでいる。

【授業の流れ】

- (1) モンスターペアレンツの意味と事例を把握する。
 - (2) 指導者の方で、場所（幼稚園）、子ども同士のトラブルというシチュエーションだけ設定しておく。
- 学生の計画、実行、評価、振り返り

計画	6人グループに分かれる。リーダーを決める。 子どものトラブルの場面を想定し、ストーリーをグループで考える。 台詞を考え、役割分担をする。
実行	グループ内で練習し、台本の不備を修正する。 みんなの前でロールプレイングを行う。
評価	ロールプレイングで、どの点が分かりやすかったか、直した方がいい点はなかったか話し合う。 ・演じたグループの感想や見ていた感想を発表し合う。 ・場面に遭遇した時の対処の仕方を学ぶ。
振り返り	各自学んだことを振り返りノートに記述する。

【あるグループの活動】

学生たちが自分たちで作成した台本を基に演技。

登場人物 園児A、Aの親、友達B、C、園長、保育士

☎ プルルルル

先生「こんにちは。〇〇幼稚園です」

親 「ひよこ組のAの母親です」

先生「こんにちは。どうなさいましたか」

親 「うちの子、BちゃんとCちゃんにいじめられているみたいなんです。もう幼稚園に行きたくないって」

先生「そうですか。そんなことがあったのですね。Aちゃんの家での様子はどうか」(1)

親 「あまり食欲もないみたいで、幼稚園に行きたくないようで、元気がないのです」

先生「そうですか。Aちゃんが心配ですね。少しBちゃん、Cちゃんに話を聞いてみて、こちらからまたお電話させていただきます」(2)

親 「分かりました。よろしく願いいたします」【受話器を置く音】ガチャ、プッー

場面が変わって（先生が園児に事情を聞いている）

先生「Bちゃん、Cちゃん、最近Aちゃんがうちで元気がないみたいなのだけど、何か知っているかな」(3)

こどもたち「しらなーい」

先生「そっか。AちゃんはBちゃんとCちゃんの間で何か嫌なことがあったみたいなんだ。何か心当たりがないかなと思って聞いてみたんだ」

B「Aちゃんが手を洗うのが遅かったから、先にトイレに2人で行っただけなんかもん」

C「うん。そうそう。いつもAちゃん遅いから。先に行っただけだよ」

BC「ねー」

先生「そんなことがあったんだね。じゃあ3人は仲良しなの？」

B「いつも、一緒に遊んでるよ。」

C「うん。その時はたまたま二人が先に行っちゃっただけだよ」

B「だからAちゃんも気にしていないのかと思った」

C「うん。悪いことしちゃったな」

先生「そうなんだ。じゃあ、先生からAちゃんに話してみるね」

場面変わって（園長室で）

先生「こんなことがあったんです」（園長に報告・連絡している）(4)

園長「そうですか。保護者の方には事情を説明してAちゃんに話す機会を作ってあげてください」(4)

場面変わって（保護者に電話）

📞 ブルルルル

親「こんにちは」

先生「〇〇幼稚園のひよこ組の担任です。先ほどのお電話の件ですが、BちゃんとCちゃんに話を聞いたところ、こんなことがあったみたいなんです。（事情を話す）こども同士のスレ違いといいますか、子どもたち2人も、Aちゃんを傷つけてしまったと心を痛めているようなのです。Aちゃんが登園したら、私も含めて4人で話したいと思っているので、安心して登園してきて大丈夫だよということをお母様の方からAちゃんに伝えていただいてもいいですか」(5)

親「分かりました。よろしくお願いいたします」

先生「はい。ご心配事がありましたら、なんでもご相談ください」(6)

親「ありがとうございます。では、失礼いたします」

ガチャ、プッポー

翌日、仲直り

【指導と考察】

ロールプレイング終了後、演じたグループから自己評価、見ていた学生から感想が話された。この作成した事例は、比較的ありがちな事例で、うまく解決できた例である。

学生たちは、「台本があっても、実際に親の立場、保育者の立場、園長の立場として、演じるのは、緊張感があった」と感想を述べていた。この事例が大きなトラブルにならなかったのは、対応のしかたにある。対応が良かった点を出させると、

・親の話をよく聞いている(1)・家での様子を聞き、親の気持ちに沿っている(2)・すぐに対応している。子どもたちに聞くときに高圧的でなく、事情をうまく引き出している(3)・園長に連絡している(4)・母親の気持ちをくみ取りながら、事情を説明している(5)(6)等が出てきた。

その後、対応が悪くて、父親が園に怒鳴り込んできて、園長が対応する事例もロールプレイングさせた。これは、台本なしで行った。学生たちは、自分が親の立場だったら、どう担任に話すか、自分が保育者の立場だったら、親の激しい怒りにどう冷静に対処するかを考えながら、演じていた。

トラブルには、正当な要求、理不尽な要求があり、保護者の訴えがすべてモンスターペアレントや、ヘリコプターペアレントではない。園側に非がある場合もある。理不尽な要求には屈してはいけないが、まず、保護者の事情をよく聞くこと。対応が悪いと、園長を出せとか、いじめっ子を転園させろ、直接相手に話に行く、担任を替えろ、教育委員会に訴えるなどこじれることもあることを指導した。報告、連絡、相談の大切さも強調した。

4年生は、1回幼稚園に実習に行っているので、ある程度、イメージがつかみやすい。2度目の実習の前にこの授業を行ったので、さらにイメージが沸いたようだ。

学生からは、①保育現場に出た時に役立つ ②親の立場に立って考えると、自分の子どもが一番かわいいから、保育者としては、公平に子どもに接しなければいけない ③何か困ったことがあったら、一人で抱え込まないで、同僚の先生、主任の先生、園長先生に報告。連絡・相談することの大切さがわかった等、学習の成果が見られた。

事例Ⅱ クレーム対応—モンスターペアレント対応（教職総合ゼミ4年）

事例Ⅰでは脚本作りをさせたが、この事例では、次の順序で講義を行った。

- (1) 保護者からのクレームの種類を、正当なもの、理不尽なもの、学校管理内、学校管理外のものに分け、学校の責任になるもの、責任ではないが、配慮するもの、理不尽なので、絶対に要求を呑んではいけないものに分類させた。
- (2) 次のような事例を挙げ、学校側の対応、その訳を記述させた。

①幼稚園の入学式の日が大雨の時、父親が「こんな嵐の日に入園式をやるのか、子どもに何かあったらどうするんだ」

学生の反応例ア

学校側の対応

お父様のお子様を思うお気持ちは十分に分かりますが、お便りに記述してある通り雨天時に決行となっておりますので、ご了承ください。会場は屋内となっておりますし、職員全員出席しておりますので、お子様に危険がないように十分に配慮しております。どうぞご安心ください。本日は誠に残念な天気ではございますが、どうぞお子様の晴れの姿をご覧ください。

訳

親の気持ちはわかると伝えるが、親の気分を損なわないような丁寧な言葉で理解してもらおう。

反応例イ

学校側の対応

日程が決まっているので今日やらなければお子様のせっかくの晴れ姿が見られなくなってしまいます。あいにくの天気ですが、私たちが明るく迎えたいと思います。お子様の安全には十分配慮しますのでご安心ください。

訳

雨くらいで日程は替えられない。

その他、考えさせた事例

- ②始業式での学級編成名簿を見て、母親が「うちの子はこの子とは仲が悪い。なぜ一緒のクラスにしたんだ。校長に頼んだはずだ。一緒にするな」
- ③友達ほしさに家のお金を出し、おごった子どもの母親が「うちの子どもは脅かされている。その子どもの保護者を訴える」
- ④給食のヒジキが嫌いな子どもの母親から「ヒジキが食べられないから他のものにしてほしい。それができないならうちの子だけがお弁当ではかわいそうなので、全員弁当にしてほしい」
- ⑤父親から「子どもの熱が下がったので、修学旅行に今からでもタクシーで行けば間に合う。ダメなら俺が連れていく。タクシー代15000円よこせ」
- ⑥我が子の音楽発表会選出漏れに対して母親は「選出オーディションの方法がおかしい。我が子の得意な曲がテーマ曲でなかったからだ。家族一同納得できない」
- ⑦修学旅行の小遣いは決まりで、2500円だが、母親から「親戚に名物のまんじゅうを届けたいので、3000円多く持たせたい」
- ⑧家からお金を持ち出し、好きなカードを買っていた子どもの親が「学校からその店に

カードを売らないように言ってほしい」

など、応答に困り、自分の頭で考えなければならない事例を考えさせた。

- (3) その後、反応例を基に、即興で、ロールプレイングを行う。

反応例アとイを比べて、どちらの方が親を納得させられるか考えさせる。

- (4) 学校としての対応策を考え、発表させる。

クレームの未然予防と解決策

学生が保育者になったことを想定し、どう対処するか学生が考えた解決策の例

- ・まずはすべての親にどのようなことが学校で行われているか、学校の様子がわかるように伝わるように、保護者向けに定期的に手紙を出す。
- ・職員によって矛盾が生じないように職員同士でしっかり話し合っておく。
- ・職員同士の柔軟な対応。
- ・怒りを持っている親は学校に対して不安感を持っているのでなんでも報告する。
- ・三者面談や家庭訪問などで、学校側が一人ひとりの子どもの家庭のことを把握しておき、信頼関係を築いておく。それでもクレームがきてしまったら、保護者の方の機嫌をそれ以上損ねないようになるべくていねいに答える。
- ・きまりや過去のケースを基に、行事前や定期的に説明や確認したりして予防する。

- (5) クレーム解決には、学校の誠意ある態度、初期対応の大切さを認識させるとともに、理不尽な要求には屈しない強さも必要であることを読み取らせる。

皆から出た意見とまとめは、次の通りである。

- ・正しい敬語の使い方をマスターする。
- ・普段から家庭との連携を密にする。
- ・前もって条件の整備をする。
- ・ていねいな対処をする。
- ・職員間のハウレンソウ（報告・連絡・相談）を怠らない。
- ・先輩職員から事前に今までのことを聞いておく。
- ・事前に起りそうなことを考えて手紙に書いて送る。
- ・普段から子どもを見守る。
- ・実際にあったことを例にして対応の仕方を考えておく。
- ・悩み相談の場や面談の機会を設ける。
- ・事実をしっかり確認する。

【指導と考察】

この事例は、単なるクレームでなく、理不尽ないわゆるモンスターペアレントの事例が多いため、考え付かない学生と考える深い学生との差が大きい。ロールプレイングを行ったことで、考えを共有でき、深まった。同じ事例でも、学生によって個性が出て、生き生きしたものとなった。学生たちの表現力の豊かさを改めて発見した。

この授業のポイントは上記（5）でも記述したが、初期対応の遅れが解決を遅らせる。逆にいえば、常に報告・連絡・相談（報・連・相　ほうれんそう）の大切さを認識することが、良い解決策となることである。また、親の自分の子が一番かわいいという当たり前の感情を大切にす。親の気持ちに寄りそうことを第一に考える。親の言い分が尤もなこともあるので、まず訴えにしっかり耳を傾け、安易な言い訳をしない。しかし理不尽なことには妥協しない強さも持つ。

これは筆者の小学校管理職の経験上からも言えるので、教員養成の学生の時に知っていると、現場に入った時に必ず役立つと確信する。

学生たちも、ニュースでは、モンスターペアレントのことは聞いているが、実際にどういものかはわからない。そこで、事例をもとにロールプレイングを行ったことにより、学生が保育者になった場合を想定し、職務に対する厳しさを実感したという感想が数多くみられた。未然の予防や起きてしまった場合、クレームの処理を最小限に食い止めるための対処の仕方について、実感していた。

3.2 自己を振り返る学び 振り返りノート

学習はP（PLAN）—D（DO）—S（SEE）—C（CHECK）即ち計画—実行—評価—振り返りのサイクルで行われる。評価と指導は表裏一体である。

毎時間の授業の終わりに授業の内容と学習感想を記述させている。これは、学生の授業に対する振り返りであると同時に、私自身の指導の振り返りである。

澤田・橋本（1990）^{〔4〕}は、『数学科での評価』の中で、学習活動と評価という観点から、評価の果たす機能について、次のように述べている。

まず第1は、生徒の指導上の資料を得るために行う評価である。これは、生徒の理解や能力の程度などの実態を明らかにし、その実態に即した指導計画を立案したり、また指導計画を修正したりする資料を得るために行うものである。

第2は、教師の指導法の反省の資料を得るために行う評価である。それによって、生徒の学習上の困難点を発見することもできるし、その結果を分析することによって、教師自身の指導法を反省し、改善するために行うものである。

第3は生徒の自己評価の資料を得るために行う評価である。個々の生徒に評価の結果をフィードバックさせて、現在自分の理解や技能の程度がどんな段階にあるかを生徒に知らせ、自主的に学習を進める態度を身につけさせようとするために行うものである。

筆者は①生徒の指導上の資料を得るため ②教師の指導法の反省の資料を得るため ③生徒の自己評価の資料を得るために行う評価の三点を分かりやすく、しかも継続して行えるように振り返りカードを工夫した。

始めは、毎時間ごとに授業感想を書かせて集めていた。しかし、学生に返却すると、資料

として蓄積できない。指導する側もされる側もその場限りの反省、振り返りとなり、次時につながらない。そこで、2年目からは、1回～15回まで、継続でき、前回の記録も振り返ることができるように、一枚のペーパーにした。これにより、学習状況、出欠状況が一挙に把握できる。始めのうちは、書くのを面倒くさがった学生もいた。ただ、面白かった。大変だった。など振り返りとはいえない感想を書く学生もいた。しかし、慣れるにつれて、授業内容の満足した点、次回にやりたいことなどを書く学生も増え、書く習慣ができてきた。

学生の振り返りノートには、

「モンスターペアレントの行動が教師にどれだけ負担をかけているかが分かりました」

「ゆとり教育 賛成か反対かでグループで協力して話し合い、意見をまとめることができた。賛成の意見にも反対の意見にも自分が賛同できるものがあったので、とても勉強になった」

「同じ課題でも班によって、分け方が違ったので、聞いていて勉強になった」

「職につき、仕事をするということは、自分の管理能力が高くなければならないと思った」

「教職に就くとは人々の見本となり節度を持った行動をとることが大切だと感じた」

等、教職の意義を実感する意見も多くみられるようになった。「継続は力なり」である。

4. まとめ

4.1 知見

- (1) 学生の活動の計画、実行、評価、振り返りのサイクルの中で、教育現場に出る時の心構えが芽生えたことが明らかになった。
- (2) 学生がロールプレイング等で実際に演じることを通して、教職の大切さを実感できたことが明らかになった。

4.2 今後の課題

教職の意義をさらに実感させるために、学生が新聞やニュース等で現代の教育の状況を敏感に受け止めるような学びの姿勢を身につける方法を模索することである。

【引用・参考文献】

- [1] 中島、清水、瀬沼、長崎 編著「算数の基礎学力をどうとらえるか」東洋館出版社、pp.23-24、1995年
- [2] ステファニー・フィーニ／ドリス・クリステンセン／エヴァ・モラヴィク、代表 大場幸夫／前原寛記「保育学入門」ミネルヴァ書房、p.7、2010年
- [3] ジョージ・ポリア、柴垣和三雄、金山靖夫訳「数学の問題の発見的解き方」みすず書房、1968年
- [4] 澤田利夫・橋本吉彦「数学科での評価」共立出版、pp.15-16、1990年

Summary

On the Ideal Method of Carrying Out a Classroom Teaching with Feeling
and Expression to the Students toward the Significance of Teaching Profession
and Contents in Teacher Training for Kindergarten

Yumiko Hashimoto

The significance of teaching profession and contents are considered. The object of this study is students who will become kindergarten teachers. Kindergarten is called *Yochien* in Japanese.

Firstly lesson style was devised in order to achieve these aims. It is important for student themselves to use their own brains. This was known as “power to live” (*Ikiru chikara* in Japanese)

Secondly student themselves make a communication one another by roll playing, and so on.

Main finding is as follows.

The students could learn that it was very important for themselves to carry out classroom teaching in such a cycle as planning, carrying out, assessing and looking back.

Keywords “power to live” (*Ikiru chikara* in Japanese), Roll Playing, Assessing

(2011年11月17日受領)